

令和 2 年 3 月 25 日

一般質問（文書質問）

議員名 林 晴信

1 質問項目

新型コロナウイルスによる臨時休校の学校教育における対応は。

2 具体的な質問内容

- ① 3月3日から小中学校は臨時休校になっているが、授業の遅れへの対応策は？（各学年における履修項目の未達への対応）

オンライン学習支援「ライズ e ライブラリアドバンス」だけで充分か？

（夏休み等の時間を充てる場合、小6、中3の問題がある）

- ② 期末試験等もない中、生徒たちの学力の理解度を何で測るのか？

- ③ 遠隔授業の可能性を探るべきではないか？

生徒も学校の先生による授業のほうが安心感があるのでは。

以下のサイトを参照

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2003/02/news085.html>

教育向け ZOOM

<https://zoom.us/jp-jp/education.html>

当面は新型コロナウイルスによる臨時的措置として4月30日までの無料コースを申し込む。

しかし、今後は不測の事態に備えるだけでなく、ICT学習の一環として、また補習的な用途にも使えるのではないか。

学習以外では、例えば保護者説明会にも使える。

3 回答

- ① 3月3日から小中学校は臨時休校となっているが、授業の遅れへの対応策は（各学年における履修項目の未達への対応）。

国の指示に沿って対応を図っています。

3月5日付、文部科学省からの通知では、卒業を迎える学年の

児童生徒に、3月末までに指導すべき内容の指導を行うことができなかつた場合の対応として、「必要に応じて進学先の学校に当該児童生徒の学習状況を伝え、進学先の学校において補充的な学習など個に応じた指導を行うなどの配慮をすること」、また、卒業を迎える学年以外の児童生徒に対しては、「必要に応じて次年度に補充のための授業として、前学年の未指導分の授業を行うことも考えられる」とあります。

本市の未履修の状況ですが、中学校3年生については、市内全ての学校におきまして全教育課程を修了しています。

小学校6年生での未履修については、家庭学習の指示を行うとともに、春季休業中に実施する小学校と中学校の連絡会において、小学校が作成する「未履修確認シート」と小学校の教科書を用いて、中学校での学習の配慮について協議を行うこととしています。

卒業を迎える学年以外の児童生徒については、校内での検討により、現在の臨時休業中及び春季休業中の家庭学習の指示とともに、必要に応じて次年度の補充的な学習について検討します。

家庭学習の指導としては、学習プリントの作成・配布、漢字や計算ドリル、音読、ローマ字学習について課題を出すなど、各学校の学習状況に合った方法で指導をしています。

また、家庭での学習支援の情報提供として、オンライン学習支援コンテンツの活用について、市のホームページに掲載するとともに、3月9日には保護者あてメールでお知らせしています。具体的には、「ラインズeライブラリアドバンス」などのWebを利用した支援コンテンツや、本市教職員が作成した読解力指導資料「にしわきパワーアップシート」など、家庭でできる学習方法やその教材を紹介しています。

次年度の補充的な学習の実施に向けては、その時間の確保が問題となってきますが、次年度の各学校の教育課程の編成の中で授業時数の算出を行い、必要な時間の確保に努めます。

教育委員会においても、各学校の未履修の状況を把握し、今後の各学校の対応状況を確認しながら、必要な指導・助言を行います。

② 期末試験もない中、生徒たちの学力の理解度を何で測るのか。

評価や評定の面では、中学校は既に期末試験を終えており、通常の評価を行いました。

小学校では、單元ごとにテストを実施しており、評価の材料はあります。国が示すQ & Aでは、臨時休業前までの、1学期から

の平素の成績を評価して、3学期及び年度末の評価を行うこととしており、この方針に沿って評価を行いました。

懸念されることは、この3月に学習すべきであった内容について、今後、児童生徒に定着が図られるかどうかであり、進級・進学先において、授業を担当する教職員が、その状態を把握することに取り組めます。

③ 遠隔授業の可能性を探るべきではないのか。

優れた授業の動画配信については、本年度の学力向上推進会議や推進委員会においても議論を行いました。

議員ご紹介の双方向通信「ZOOM」については、昨年11月に双葉小学校が活用し、総合的な学習の時間において北海道富良野市立樹海小学校と交流授業を実施するなど、有効な学習手段の一つとして市内でも取組を始めているところであります。

今後、このたびの感染が終息せずに臨時休業が長期化した場合にはその導入を検討するとともに、平時においても長期休業中や不登校児童生徒への指導などについて有効であると認識しており、研究を行います。

現状では、インターネットの接続状況や端末の所有状況については、家庭によって差異があることが課題ではありますが、国が推進する「GIGAスクール構想」も有効に活用しながら、インターネットを活用した学習の研究を進めていきます。